

3

東京都品川区 品川区立第一日野小学校

5つの教育・文化施設を一体的に整備

- ・図書館、音楽ホール、プラネタリウム等、多様な施設との複合化
～多世代が集う地域の学習・文化活動の拠点
- ・連携した運営により、積極的な施設の有効活用・人材交流を実施

- 学校規模／17学級527名
(特別支援学級／4学級26名)
- 複合施設(床面積)／小学校(7,830㎡)
幼保一体施設(1,475㎡)
図書館(1,181㎡)
文化センター(4,508㎡)
教育センター(1,454㎡)
- 整備時期／平成3年
- 構造／RC造一部S造地上6階塔屋1階



小学校の図書室に設けられた幼児用の読書スペース

施設整備の背景

- ・改築前は、現在の敷地に中学校・教育総合会館(図書館・教育センター)、文化センターがあり、その隣地に第一日野小学校及び幼稚園があった。
- ・中学校の移転に伴い、跡地に小学校を改築。既存の教育総合会館を改修・増築し、幼保一体施設も同時に整備した。

管理・運営の体制

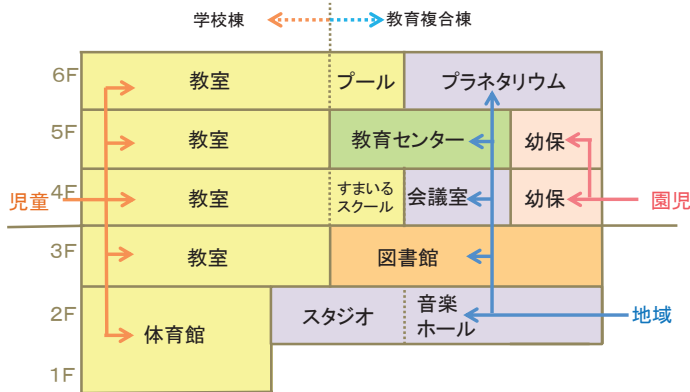
施設	利用時間(平日)				所管	管理・運営
	8	12	17	22		
小学校	←————→				教育委員会	教育委員会
幼保一体施設	←————→				区長部局	区長部局
図書館	←————→				教育委員会	教育委員会
文化センター	←————→				区長部局	区長部局
教育センター	←————→				教育委員会	区長部局

- ・施設全体の維持管理業務は民間の管理業者に委託。

施設の配置・動線

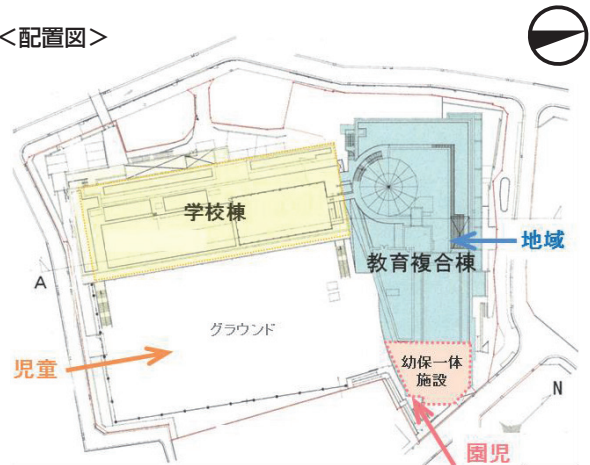
- ・各施設は明確に区分している。(児童・園児・地域の動線は交わらない。)
- ・敷地の高低差を活かし、校舎の高さを抑えるとともに、各施設を利用しやすく配置している。

<立面図>



凡例 → 児童 → 地域 → 園児

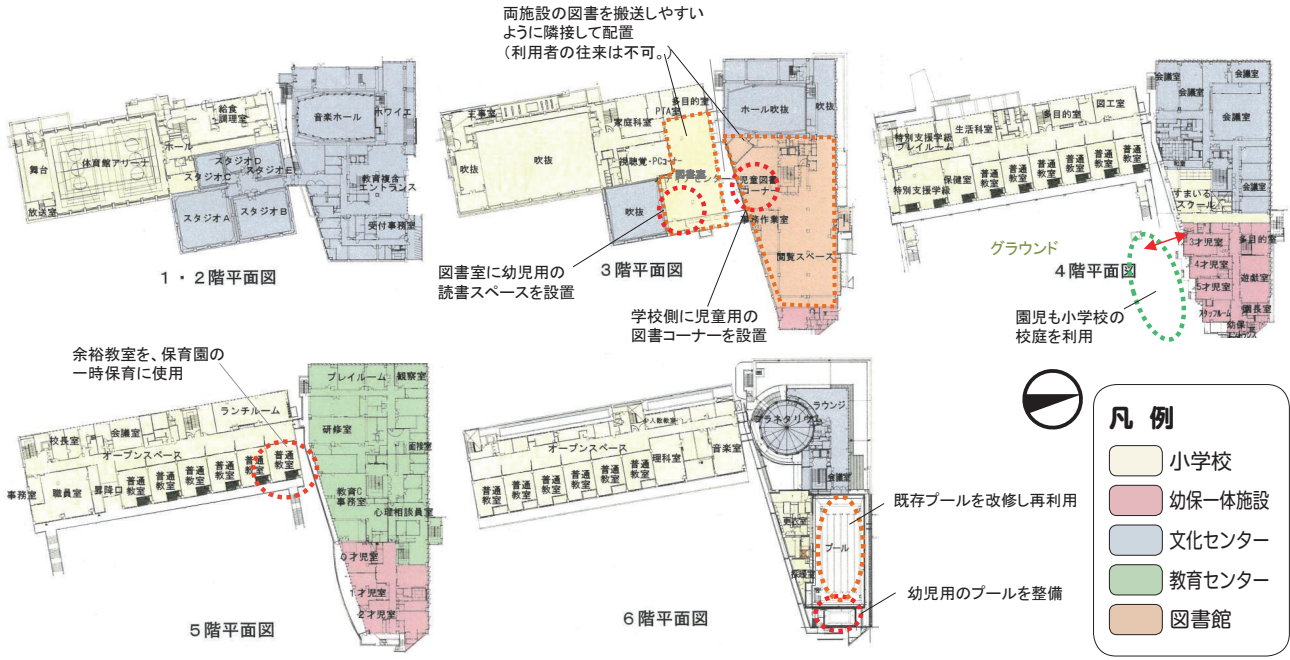
<配置図>



凡例 小学校 幼保一体施設 教育複合棟

平面計画上の特徴

- ・各施設は明確に区分されており、動線が交わらないように設計されている。
- ・品川区が推進する、小学校と幼稚園・保育園との連携教育に応じた整備がされている。



相互利用・交流活動

- ・小学校の校庭や体育館を幼保一体施設でも使用
- ・幼児用のプールや読書スペースを、小学校内に設置
- ・小学校の余裕教室を、保育園の一時保育やPTA活動に使用

→ 小学校の設備とスペースを幼児教育にも活用
 ・小学校・幼稚園・保育園における教育に連続性を持たせる

- ・学校の図書室で、隣接する区立図書館の資料も貸出しが可能
- ・設備の調った音楽ホールを、音楽発表会等で使用(使用料無料)
- ・授業や親子教室等でプラネタリウムを活用

→ 学校教育にも公共施設を有効的に活用



小学校と幼保一体施設が共有する校庭



小学校プールの脇の幼児用プール

防犯対策

- ・施設を明確に区分している。
- ・学校の図書室と区立図書館は、一体的な利用も可能であるが、安全性を確保する観点から、現状として別々に施設管理している。



地域の利用者の出入口となる教育複合棟のエントランス



学校の図書室と区立図書館は中庭を挟んで向かい合っている

→ 地域の実情に応じた対応により、児童の安全を確保

施設間の連携

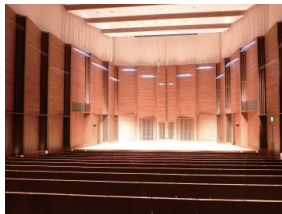
各施設の担当者間で毎月合同の打合せを実施。各施設の近況や利用計画、防犯対策等について密に連携を取っている。

→ 運営面の工夫により、施設間の交流・相互利用を促進

財政面

- ・小学校、幼保一体施設、教育センターといった地域の教育施設と、音楽ホール・プラネタリウム・スタジオ等、地域の文化施設が集約された、地域の教育・文化活動の拠点施設となっている。

→ 多様な施設に囲まれていることで、日常的に学習や文化に対する関心・活動機会が高まる



設備の調った音楽ホールでは日々様々な催しが行われている



授業等でも活用できる文化センターのプラネタリウム



学校教育に関する相談ができる教育相談センター

委員の意見より

- ・多様な施設で構成された高機能な教育施設が整っているだけでなく、相互利用を可能にする運営が行われていることが、児童の教育効果をあげているのではないかと。
- ・大都市における学校と地域との連携には限界がある。このため、施設の複合化を通じて、自然に子供たちが、社会の多様な面に触れたり、地域住民が学校に対する理解を深めたりすることができるのではないかと。

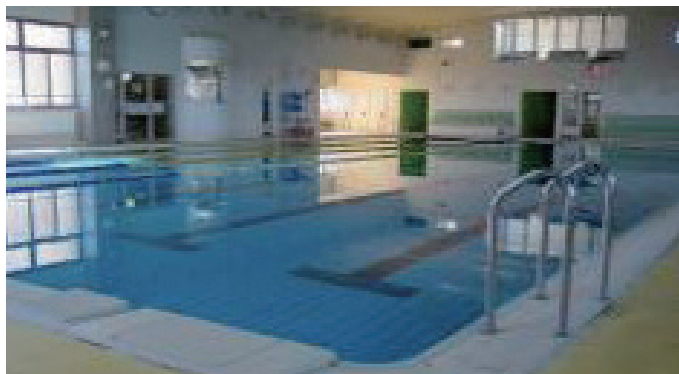
4

東京都目黒区 目黒区立碑小学校

学校と地域に求められる機能を備えた複合施設

- ・学校の屋内プールを地区プールとして地域に開放
～施設管理等は業務委託とし、学校側の負担を軽減
- ・各施設利用者と児童の動線は完全に分離

- 学校規模／17学級 559名
(特別支援学級／3学級 18名)
- 複合施設(床面積)／小学校(7,830㎡)
地区プール(1,462㎡)
目黒区出張所・
地域包括支援センター(500㎡)
地域防災用備蓄倉庫(51㎡)
- 整備時期／平成19年
- 構造／RC造一部S造地上5階



学校に併設された地区プール

施設整備の背景

老朽化が進んでいた校舎を改築する際に、碑小の周辺地域にはなかった屋内プールを整備。併せて、地域に必要な区の出張所等を整備。地域住民の意見を踏まえ、設計を行った。

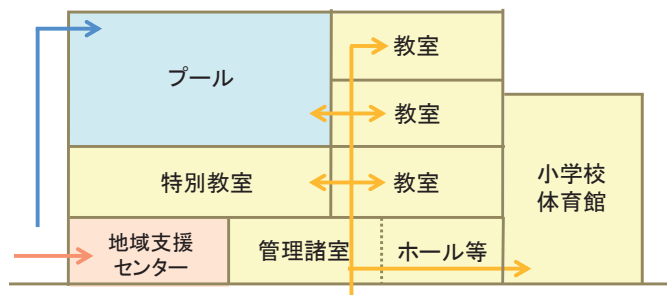
管理・運営の体制

施設	利用時間(平日)				所管	管理・運営
	8	12	17	22		
小学校	←→				教育委員会	教育委員会
地区プール	←→				区長部局	区長部局
区出張所	←→				区長部局	区長部局

施設の配置・動線

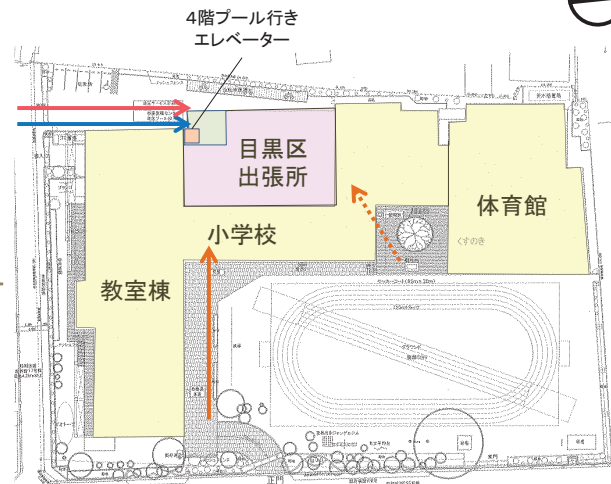
学校とその他の施設は同じ建物でありながら、敷地入口、建物入口、内部動線の全てが明確に区分されており、鍵を使わない限り互いに行き来ができないようになっている。

<立面図>



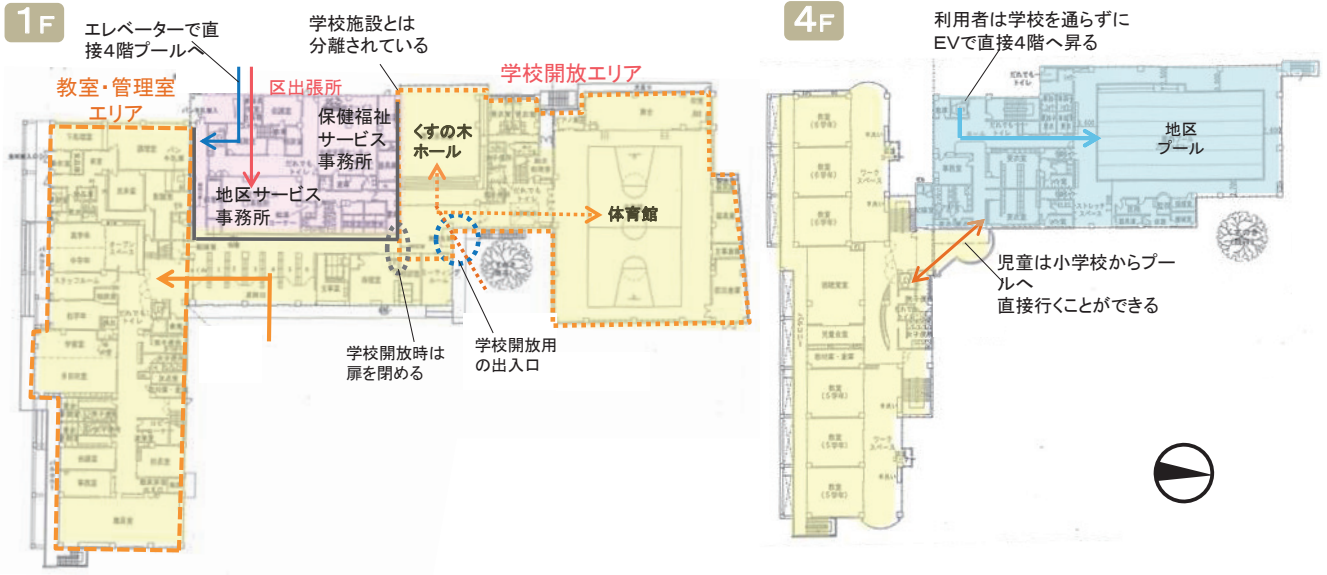
- 凡例
- 小学校 (黄色)
 - プール (水色)
 - 目黒区出張所 (赤)
 - 児童 (オレンジ)
 - プール利用者 (青)
 - 地域 (赤)
 - 学校開放 (点線)

<配置図>



平面計画上の特徴

- ・小学校とその他の施設とは完全に分離されており、学校時間中に児童と他施設の利用者が重なる場所はない。
- ・小学校のうち学校開放をするエリアは1階の北側に集約している。学校開放時には小学校の教室・管理室エリアへ繋がる動線を扉で遮断し、施設利用者が入らないようにしている。



凡例 □ 小学校 □ プール □ 行政機関出張所 → 児童 → プール利用者 → 地域 → 学校開放

業務受託者が管理する屋内プール

- ・区内の他の地域にはそれぞれプールがあったが、碑小が位置する南部地区には存在しなかったため、屋内プールを整備。
- ・一般利用者と児童の利用を踏まえ、エリアを分割して床の高さを調整できる昇降式としている。
- ・学校は授業及びクラブ活動で使用している。季節及び天候に限らずプールを使うことができる。なお、指導は教員が行っている。
- ・学校が授業などで利用する場合は、通常時は施錠されている4階の扉の鍵を教員が開けて児童をプール側に誘導している。
- ・業務受託者がプールの管理をしており、また、業務受託者は、学校施設全体の保守点検業務も併せて受託している。

→高機能な屋内プールは、地域住民のためにもなっており、また、特色ある教育活動も可能となっている。

動線分離等による防犯対策

- ・児童の防犯面を第一に考えて設計。
- ・行政機関出張所やプールの利用者のアプローチは、児童とは別の動線となっている。
- ・建物の中でも、通常時は互いに行き来できないようになっている。
- ・4階プールへは、小学校内を通らずに、専用のエレベーターで直接向かうことが可能。
- ・学校正門、通用口には防犯カメラも設置。



行政機関出張所やプールの利用者専用のアプローチ

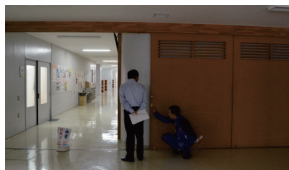


プール専用のエレベーター

→動線を完全に分離し、安全性を確保している。

学校開放を考慮した配置計画

- ・小学校の音楽室は社会教育施設棟の2階にあり、時間外には地域に開放をしている。
- ・幼稚園は専用の園庭を持っていないが、小学校のグラウンドと、隣接する台東区の清島児童遊園を利用している。
- ・区民プールは、小学校の授業でも利用が可能。



学校開放部分とそれ以外の部分を区分する扉

→学校開放時の管理負担の軽減に繋がっている

地域とともにある学校

- ・地域住民による「おらが町の学校」という意識の強いエリアであり、学校改築に当たっても、地域住民が積極的に参加。住民の意見も取り入れ、設計を行っている。
- ・地域住民が企画し、児童が参加するような交流として、火起こし体験、キャリア教育（児童の保護者に仕事の内容を紹介してもらうなど）などを行っている。

委員の意見より

各施設の出入り口を別にし、施設間のドアを施錠するなど、学校と南部地区サービス事務所、南部包括支援センター等は各々明確に区画されており、安全性を確保している。